

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

平成26年10月15日
芦屋市教育委員会

文部科学省が実施した、平成26年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 芦屋市全体の結果について

教科に関する調査は、昨年度と同様、国語と算数・数学の2教科で実施されました。結果は、小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り、市教育委員会では「評価できる結果」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、いくつか課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組めます。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数 (人)	受検者数 (人)
小学校6年生	777	745
中学校3年生	538	506
合計	1,315	1,251

(3) 調査実施日 平成26年4月22日 (火)

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査

[国語A, 算数・数学A] (主として知識)	[国語B, 算数・数学B] (主として活用)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

② 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の公表について

(1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

(2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

4 本市の各教科の調査結果の概要

(1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語		算数・数学	
			A	B	A	B
小学6年生	全国	平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2
		平均正答率	78.1	60.5	83.5	66.7
	芦屋市	全国比較	107	109	107	115
		評価	良好	良好	良好	極めて良好
中学3年生	全国	平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8
		平均正答率	81.2	52.9	72.1	62.7
	芦屋市	全国比較	102	104	107	105
		評価	おおむね良好	おおむね良好	良好	良好

※全国比較は全国平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

(2) 各教科の領域別の概況

各教科の領域別（知識・活用）の状況については、本市の小中学生は国語、算数・数学ともに基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いており、評価できる結果となっています。

中でも小学校の算数Bは、全国と比較して高得点の児童が多く、昨年度に引き続き、「極めて良好」となっています。中学校では、各得点の人数分布は全国と同様、もしくは高得点の割合が多い人数分布となっています。また、小中学校ともに人数分布が上位層と下位層に分かれるような、いわゆる二極化の傾向は、改善されてきています。

今後は、身に付けた知識を生かして、それらを活用していく力をさらに伸ばしていくことが重要ですが、そのためにも、指導においては、文章を読み取る力や、論理的に考えそれを文章で記述していく力を身に付ける機会を増やしていくことが求められます。

具体的には、国語では、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に記述する活動、算数・数学では、図やグラフを理解して結論を導き出したり、相手にわかるように数学的な表現を用いて説明したりする活動に、一層取り組む必要があります。

【小学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	3	○ 物語の一部を読んで情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する。	71.4%	58.7%
	2二	○ 故事成語の使い方として適切なものを選択する。(五十歩百歩) (百聞は一見にしかず)	60.4% 59.3%	55.8% 49.9%
国語B	1三	● 「卒業文集をパソコンを使って作るか、手書きで作るか」という討論会で、パソコン支持者の発言のあと、反対する立場から意見か質問を書く。	31.1%	28.3%
	2二	● 科学的な読み物からわかったことや、疑問に思ったことを付せんに書いたものを整理して、まとめた文を書く。	30.4%	26.9%

- 情景描写の理解は、比較的高い割合でできており、全国の平均正答率を大きく上回っている。
- 故事成語の適切な使い方の選択は、全国との比較では、高い割合で正解できているが、十分に理解できているとは言えない。
- 討論で異なる立場の発言者に、論点がそれないように質問したり、意見を言ったりする力は、全国平均をやや上回っているが、設問に対する正答率は低く、課題がある。
- 複数の内容を関係付けながら、まとまりのある文章に構成する力についても、正答率は低く、十分な力が身に付いているとは言えず、課題がある。

【中学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	6一	○ 二人の意見を聞いて相違点を整理する。	60.1%	54.3%
	6二	○ 話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する。	75.3%	76.0%
国語B	2三	● 水の中に浸すと切手をきれいにはがすことのできる理由を、資料から情報を得て書く。	28.1%	28.4%
	3三	● 示された落語の演じ方のうち一つを選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を参考に登場人物の気持ちを考えて書く。	49.0%	46.5%

- 目的に沿って話し合い、互いの意見を比較することは、全国よりも高い割合でできている。
- 話し合いの方向をとらえた司会の役割を理解することは、ほぼ全国平均程度の割合でできている。
- 資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことについては、設問に対する正答率は非常に低く、大きな課題としてとらえる必要がある。
- 伝統芸能における演じ方で、登場人物の感情表現をとらえて、ある演じ方を理由を書くことについても、半数以上が正答できておらず、生徒の思考力、判断力、表現力をよりしっかりと育くむ指導が求められる。

【指導の改善の方向性】

- ア 話し合いで相手と異なる意見を述べたり、批判的な立場から質問をしたりするときは、相手と論点を共有しつつ相違点を明確にし、話し合いの流れや相手の立場を十分に考えて行うよう指導する。
- イ 自分の考えを話したり書いたりするときは、理由や根拠を明らかにする習慣を、日常生活における言語活動を通して体験的に身に付けるように工夫する。
- ウ 自分の考えを支える根拠が必要なときは、資料や記事等の題材を手がかりにし、発言の主旨に関連するよう効果的に引用する力を身に付けるよう指導する。
- エ 複数の事実をまとめて一つの結論に導くような文章を書く力を付けるように、文章の構成や理論の展開を練る習慣を身に付けるよう指導する。

【小学校 算数】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
算数A	4(2)	○ 8㎡に16人いる部屋について、1㎡当たりの人数を求める式を書く。	71.0%	60.8%
	9	○ 正五角形の1辺の長さ、まわりの長さの関係を表す式を選ぶ。	87.5%	82.0%
算数B	3(3)	● 示された方法でスープを分ける途中で、残りの人数に分けられるかどうかを選び、その理由を書く。	40.1%	30.6%
	4(2)	○ 2人の異なるリズムが重なる12小節目がどのような意味を持つ数字であるかを書く。	69.9%	60.5%

- 一定面積当たりの人数の求めることは、比較的高い割合でできている。
- 2つの数量の関係を式に表すことは、高い割合でできている。
- 示された情報をもとに、適切な配分する方法と理由を述べることは、正答率だけを見ると、全国平均を上回っているが、その割合は低く、今後の指導上の課題としてとらえる必要がある。
- 日常生活の現象を公倍数などの算数の知識にもとづいて説明することは、比較的高い割合できている。

【中学校 数学】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
数学A	2(2)	○ 単項式どうしの除法 $10xy \div 5x$ を計算する。	96.0%	90.7%
	12	● 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係を答える。	42.6%	38.7%
数学B	4(1)	○ 三角形の合同を利用して2つの線分の長さが等しいことを証明する。	50.0%	39.4%
	6(2)	● 弟を追いかける兄の時間と距離の関係を表すグラフを書き、そこから兄の速さを求める方法を説明する。	34.3%	29.9%

- 文字式の基本的な計算は、非常に高い割合で正答できている。
- 立体図形の種類と体積の関係についての理解は、全国平均をやや上回るものの、正答率は低く、十分な理解ができていない。
- 三角形の合同条件を利用し線分の長さが等しいことを証明することは、全国平均よりは高い割合できているが、半数の生徒しか正解できておらず、課題としてもとらえる必要がある。
- グラフを利用して距離、時間、速度の関係を説明する問題についても、正答率が低いことから、それぞれの関係を利用して課題解決を図る指導の充実が求められる。

【指導の改善の方向性】

- ア 一定の関係のある2つの数量について、計算して一方から他方を求めるだけでなく、数字と言葉を組み合わせるその方法を説明することができるよう、指導を工夫する。
- イ 立体図形の種類と特徴を体系的に理解し、底面積、高さ、体積の関係について完全に理解できるように指導する。
- ウ 文章からわかることを表やグラフに反映し、それを利用して、事実を言葉や式で説明する活動場面を増やしていく。

【無回答率の高い問題】

【小学校】

教科	問題番号	設問の概要	無回答率	
			芦屋市	全国
国語 B	3 二	詩の解釈として異なる着眼点を比べ、ある子どもの解釈としてあてはまるものを選択する。	18.2%	19.8%
国語 B	3 三	二つの詩を読み比べ自分の考えを書く。	21.2%	26.0%
算数 B	2(3)	身長と使いやすい箸の長さの関係から、ある子どもの使いやすい箸の長さの求める方法と答えを書く。	9.7%	13.1%

【中学校】

教科	問題番号	設問の概要	無回答率	
			芦屋市	全国
国語 B	2 三	水の中に浸すと切手をきれいにはがすことのできる理由を、資料から情報を得て書く。	15.2%	16.0%
数学 B	3(2)	ウェーブをする人数とそれにかかる時間との関係について説明する。	26.2%	30.1%
	4(2)	二等辺三角形の性質や内角の和を利用して、三角形が組み合わされた図の中の指定された部分の角度を求める。	30.7%	43.2%

- ◆ 本市の児童生徒の無回答率は、総じて全国平均よりも低く、国語、算数・数学のいずれにも、説明したり、自分の考えを書いたりする問題に、意欲的に取り込もうとしている。
- ◆ 特に、算数 B・数学 B の、様々なデータや条件をもとに答えを求める問題の無回答率については、全国平均との差がより大きくなっており、粘り強く取り組もうとする姿勢が表れている。

5 教科の学習に対する子どもの意識の変化

(単位：％)

設 問	教 科	小 学 校			中 学 校		
		H21 本市	H26 本市	H26 全国	H21 本市	H26 本市	H26 全国
勉強が好き (どちらかというが好き)	国語	59.1	61.0	59.2	57.2	51.9	58.2
	算数・数学	62.6	67.6	61.6	61.6	61.7	56.6
勉強は大切 (どちらかという大切に)	国語	90.0	90.5	91.8	88.6	85.4	89.0
	算数・数学	91.0	94.1	92.3	79.4	79.6	82.1
授業はよくわかる (どちらかというわかる)	国語	81.1	81.8	80.1	69.7	70.3	72.0
	算数・数学	82.4	83.5	79.6	71.2	80.0	71.5
授業で学習したことは 将来、役に立つ	国語	80.7	86.3	87.4	78.5	76.0	82.5
	算数・数学	85.6	89.0	89.0	63.6	65.6	71.4

- ◆「勉強が好き」と回答した児童生徒の割合は、中学校の国語を除いて、全国平均を上回り、小学校では平成21年度よりもさらに高くなっている。
- ◆「勉強は大切」と回答した児童生徒の割合は、小学生では国語・算数ともに非常に高いが、中学校になると国語、数学ともにやや低下している。全国平均も同様の傾向であるが、本市では小学校から中学校にかけて、その低下の割合は大きくなっている。
- ◆「授業がよくわかる」と回答した児童生徒の割合は、小学生では国語・算数ともに全国平均、平成21年度本市平均をやや上回っている。中学校では国語は全国平均、また平成21年度本市平均とほぼ同程度となっているが、数学は大きく上回っている。
- ◆「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」と回答した児童生徒の割合は、小学生では国語・算数ともに非常に高いが、中学校になると国語、数学ともに低下し、全国平均を下回っている。

【指導の改善の方向性】

- ア 教科に関する調査で良好な結果を残しながらも、「勉強が好き」、「勉強が大切」、「学習したことは将来、社会で役立つ」と感じる割合が、小学校から中学生へ低下していることから、発達段階に応じた動機づけが各教科の授業で求められる。
- イ 特に中学校では、授業の中で学習していることが、日常の事象や、様々な問題解決につながることを生徒が実感できるよう、指導の工夫を行う必要がある。
- ウ 算数・数学については、各学校にチューターが配置されていることもあり、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合は高く、特に中学校で顕著となっている。今後も、チューターの有効的な活用により、学習に対する意欲や学力の定着が十分に進まない児童生徒に対する、きめ細かな指導を継続して行うことが大切である。
- エ 現在、配置されているチューターや理解推進員については、その配置効果を検証し、その成果を客観的なデータとして積み上げていくことが必要である。

6 生活習慣と授業に取り組む子どもの姿

No.	内 容	校種	H21	H26	
			芦屋市	芦屋市	全国
1	学校生活で、友達関係で何か悩みを抱えたら、相談する人がいる。	小学校		82.1	79.3
		中学校		71.5	72.7
2	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	小学校	75.1	83.1	83.0
		中学校	64.3	65.1	72.1
3	読書は好きである。(どちらかといえば、好きである)	小学校	69.1	80.2	73.0
		中学校	59.8	61.4	69.4
4	自分にはよいところがあると思う。	小学校	38.0	37.9	35.0
		中学校	18.5	35.0	24.3
5	今住んでいる地域の行事に参加している。(どちらかといえば、している)	小学校	41.8	54.6	68.0
		中学校	28.4	31.7	43.5
6	前の学年まで受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた。(どちらかといえば、行っていた)	小学校	76.0	85.2	84.9
		中学校	58.5	85.9	75.3
7	国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。(どちらかといえば、している)	小学校	57.6	60.6	61.4
		中学校	39.3	51.8	56.1
8	数学・算数の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。(どちらかといえば、している)	小学校	77.2	78.9	81.3
		中学校	60.2	70.5	65.2

- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている中学生の割合が、全国と比較して低くなっている。
- ◆ 「自分にはよいところがある」と答えた小中学生の割合は、全国平均よりは高いが、自分に自信を持ってない小中学生は多い。
- ◆ 平成21年度と比較して、小中学校ともに授業の中で友達との間で話し合う活動が、よく行われるようになってきている。

7 生活習慣や学習環境と教科に関する調査結果の関係

(1) 「算数・数学の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童生徒を全体平均と比較した場合の正答率の差(単位%)

校 種	国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	+ 3.5	+ 3.7	+ 3.5	+ 6.1
中学校	+ 3.2	+ 5.0	+ 6.1	+ 7.8

- ◆ 本市において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童生徒の平均正答率は、小中学校ともに全ての教科にわたって、全体の平均正答率を上回っており、特に活用を問う算数・数学 B 問題でその差が顕著となっている。また、小学校より中学校においてその差が顕著といえる。

(2) 「読書が好き」と回答した児童生徒を全体平均と比較した場合の正答率の差（単位％）

校 種	国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	+ 3.5	+ 3.8	+ 2.0	+ 3.0
中学校	+ 5.0	+ 7.1	+ 3.3	+ 3.9

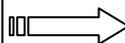
◆ 本市において、読書が好きと回答した児童生徒は、小中学校ともに全ての教科にわたって全体の平均正答率を上回っており、特に活用を問う国語 B 問題でその差が顕著となっている。また、小学校より中学校においてその差が顕著といえる。

8 教育委員会の取組について

教育委員会では、芦屋市教育振興基本計画に基づき、児童生徒の知・徳・体の調和した「人間力」の育成、本調査の結果を活用し、次のような取組を進め、学校の教育活動を支援していきます。

(1) 学習指導・授業研究の充実

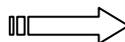
- 学力向上パワーアッププラン、学力向上研究支援プランの充実
- 複数指導や少人数指導の推進
- チューター（学習指導員）の配置
- 理科支援員の配置（小学校）
- 地域人材や学生ボランティアを活用した特色ある学校園づくり



- 児童生徒が体験を通して学べる学習環境の整備
- 児童生徒一人一人の個性や能力に応じた指導の充実
- 児童生徒の学習意欲や興味・関心を引き出す授業の研究
- 教職員の資質や授業力の向上を目指した研修の充実

(2) 小中連携の取組の推進

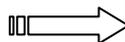
- 中学校合同授業研究会の充実
- 教科等研究会の充実
- 小中学校間の授業交流の推進



- 小中学校間の円滑な接続や系統的な教科指導についての研究の推進
- 授業交流や共同研究による教職員の実践的指導力の向上

(3) 読書活動の推進

- 読書月間の設定・啓発
- 学校図書館の環境整備・利用啓発
- 読書スタンプラリーの実施
- 「おはなしノート」「読書ノート」の配布・活用
- 図書推薦本 400 選の改訂(26年度)
- 読書活動推進校の指定



- 図書ボランティアや市立図書館と連携した読書活動の推進
- 朝の読書タイムの充実
- 学校図書館の授業での活用促進
- 児童生徒の学校図書館の本の利用冊数の増加

(4) 家庭への啓発・連携の強化

○ 保護者，地域への取組の発信

○ 家庭との連携による児童生徒の生活習慣，学習習慣の向上

9 家庭・地域での取組について

- ◆ 約束ごとはきちんと守らせて，規則正しい生活が送れるようにしましょう。
- ◆ 学校での出来事や社会で起きていることについて，親子で話をする機会を増やしましょう。
- ◆ 親子で読書に取り組む時間をとりましょう。
- ◆ 子どものよいところや頑張ったところを積極的に認め，評価しましょう。
- ◆ 子どもが地域の中で活動し，活躍できる機会を増やしましょう。
- ◆ 親子でインターネットや携帯メール等に依存しないような環境を作りましょう。

10 質問紙調査結果（全項目）

No.	内 容	項目	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べている	芦屋市	85.9	86.3
		全国	88.1	83.8
2	毎日，同じくらいの時刻に寝ている	芦屋市	33.6	31.5
		全国	37.4	29.4
3	毎日，同じくらいの時刻に起きている	芦屋市	56.3	56.6
		全国	58.0	55.8
4	ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがある	芦屋市	79.3	75.4
		全国	71.5	71.1
5	難しいことでも，失敗を恐れなくて挑戦している（どちらかといえばしている）	芦屋市	74.2	68.5
		全国	75.1	68.0
6	自分には，よいところがあると思う	芦屋市	37.9	32.1
		全国	35.0	24.3
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である（どちらかといえば得意である）	芦屋市	54.1	54.3
		全国	49.5	48.6
8	友達に伝えたいことをうまく伝えることができる（どちらかといえばできる）	芦屋市	73.4	72.3
		全国	74.8	70.3
9	友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる（どちらかといえばできる）	芦屋市	89.0	90.5
		全国	91.7	92.2
10	将来の夢や目標を持っている	芦屋市	70.7	50.9
		全国	70.7	46.0
11	普段（月～金曜日），1日当たり2時間以上，テレビやビデオ・DVDを見たり，聞いたりする（テレビゲームをする時間は除く）	芦屋市	44.6	50.0
		全国	61.3	56.5

No.	内 容	項目	小学校	中学校
12	普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする	芦屋市	42.3	51.3
		全国	54.7	56.4
13	普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）	芦屋市	10.9	45.0
		全国	15.1	47.7
14	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強する（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	34.4	14.3
		全国	11.2	10.4
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり3時間以上、勉強する（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	33.1	23.2
		全国	11.5	16.9
16	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	芦屋市	67.4	96.0
		全国	56.1	94.3
17	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上、読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	芦屋市	23.2	13.2
		全国	18.0	15.6
18	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く	芦屋市	16.9	7.0
		全国	18.7	8.0
19	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	芦屋市	58.7	45.3
		全国	53.2	41.9
20	家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る	芦屋市	78.5	51.3
		全国	81.2	49.9
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	65.4	49.7
		全国	61.0	46.6
22	家で、学校の宿題をしている	芦屋市	86.4	58.2
		全国	86.0	63.7
23	家で、学校の授業の予習をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	36.0	30.1
		全国	43.2	31.0
24	家で、学校の授業の復習をしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	42.2	43.1
		全国	54.0	50.4
25	学校に行くのは楽しいと思う（どちらかといえば楽しい）	芦屋市	85.7	82.3
		全国	86.6	82.4
26	学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、相談する人がいる	芦屋市	82.1	71.5
		全国	79.3	72.7
27	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	芦屋市	56.2	55.0
		全国	57.2	58.5

No.	内 容	項目	小学校	中学校
28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	芦屋市	32.7	24.6
		全国	35.9	26.2
29	今住んでいる地域の行事に参加している（どちらかといえばしている）	芦屋市	54.6	31.7
		全国	68.0	43.5
30	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（どちらかといえばある）	芦屋市	66.4	56.1
		全国	62.9	55.6
31	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある（どちらかといえばある）	芦屋市	43.0	34.3
		全国	42.5	31.2
32	新聞をほぼ毎日読んでいる	芦屋市	17.1	12.9
		全国	10.0	8.0
33	テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	芦屋市	53.0	52.1
		全国	53.8	48.1
34	学校のきまりを守っている	芦屋市	29.0	57.4
		全国	39.9	55.6
35	友達との約束を守っている	芦屋市	68.4	63.8
		全国	67.7	65.8
36	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	芦屋市	75.5	76.4
		全国	74.1	77.8
37	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	芦屋市	83.1	65.1
		全国	83.0	72.1
38	人の役に立つ人間になりたいと思う	芦屋市	71.2	70.3
		全国	72.0	72.8
39	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	85.9	57.2
		全国	85.0	71.2
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）	芦屋市	62.5	37.8
		全国	63.8	54.8
41	前の学年までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	78.3	45.5
		全国	77.3	46.5
42	前の学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	84.3	79.4
		全国	83.7	81.1
43	前の学年までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	85.2	85.9
		全国	84.9	75.3
44	前の学年までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	82.8	74.7
		全国	82.0	71.5

No.	内 容	項目	小学校	中学校
45	前の学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	71.5	42.4
		全国	71.9	53.3
46	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	57.9	62.1
		全国	63.4	67.1
47	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	51.8	56.4
		全国	57.6	67.2
48	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	65.4	61.2
		全国	65.9	61.9
49	授業の中で分からないことがあったら、そのままにせず、人に尋ねたり、自分で調べたりする	芦屋市	83.0	73.9
		全国	82.9	77.5
50	国語の勉強は好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	61.0	51.9
		全国	59.2	58.2
51	国語の勉強は大切だと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	90.5	85.4
		全国	91.8	89.0
52	国語の授業の内容はよく分かる（どちらかといえば分かる）	芦屋市	81.8	70.3
		全国	80.1	72.0
53	読書は好きである（どちらかといえば好きである）	芦屋市	80.2	61.4
		全国	73.0	69.4
54	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（どちらかといえば思う）	芦屋市	86.3	76.0
		全国	87.4	82.5
55	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（どちらかといえばしている）	芦屋市	60.6	51.8
		全国	61.4	56.1
56	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（どちらかといえばしている）	芦屋市	58.5	46.4
		全国	58.5	49.1
57	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（どちらかといえば書いている）	芦屋市	71.3	59.4
		全国	70.7	60.3
58	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる（どちらかといえば読んでいる）	芦屋市	78.6	63.1
		全国	75.8	63.3
59	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題は、すべて最後まで書こうと努力した	芦屋市	80.5	68.7
		全国	76.1	70.4
60	調査問題の解答時間は十分だった（国語A）	芦屋市	58.7	73.3
		全国	49.7	61.8
61	調査問題の解答時間は十分だった（国語B）	芦屋市	28.2	54.3
		全国	23.7	44.4

No.	内 容	項目	小学校	中学校
62	算数(数学)の勉強は好きである(どちらかといえば好きである)	芦屋市	67.6	61.7
		全国	61.6	56.6
63	算数(数学)の勉強は大切だと思う(どちらかといえば思う)	芦屋市	94.1	79.6
		全国	92.3	82.1
64	算数(数学)の授業の内容はよく分かる(どちらかといえば分かる)	芦屋市	83.5	80.0
		全国	79.6	71.5
65	算数(数学)の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う(どちらかといえば思う)	芦屋市	76.7	89.5
		全国	77.3	91.3
66	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える(どちらかといえば考える)	芦屋市	78.7	71.3
		全国	78.1	70.3
67	算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える(どちらかといえば考える)	芦屋市	66.1	37.5
		全国	66.3	40.9
68	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う(どちらかといえば思う)	芦屋市	89.0	65.6
		全国	89.0	71.4
69	算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える(どちらかといえば考える)	芦屋市	79.5	69.3
		全国	79.4	67.4
70	算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている(どちらかといえばしている)	芦屋市	78.9	70.5
		全国	81.3	65.2
71	算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている(どちらかといえば書いている)	芦屋市	84.7	81.2
		全国	83.4	80.0
72	今回の算数(数学)の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題には、すべて最後まで解答を書こうと努力した	芦屋市	82.7	59.4
		全国	79.7	57.7
73	調査問題の解答時間は十分だった(算数・数学A)	芦屋市	65.1	70.9
		全国	55.9	58.7
74	調査問題の解答時間は十分だった(算数・数学B)	芦屋市	58.7	61.6
		全国	47.3	44.6

11 その他

全県、全国の調査結果もそれぞれのホームページでご覧になれます。

○兵庫県教育委員会 義務教育課

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/gakuryokutyousa/gakuryoku.htm>

○国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/index.html>